
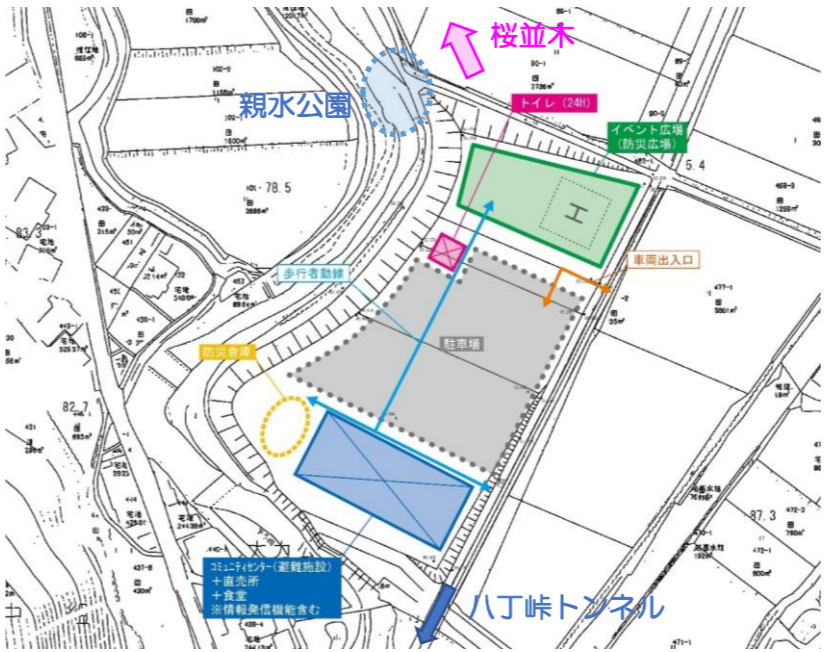


■施設配置比較検討表（千手・泉河内地域）

配置イメージ	A案 (千手・泉河内地域の新たなランドマーク)	B案 (周辺資源を活かした賑わいづくり)	C案 (地域の魅力を伝える活性化拠点)
	配置イメージ		
特徴	・ 建物を中心として施設全体を効率的に配置した案	・ 建物を南側に配置しつつ防災機能と隣接させ、広場や駐車場等の平面空間を一体的にまとめた案	・ 建物を北側に配置し、広場や駐車場等の平面空間を一体的にまとめた案
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物（コミュニティセンター他）を敷地中央部へ配置する。</li> <li>[配置施設]：建物（コミュニティセンター）[避難施設]、直売所、レストラン、屋外トイレ（24H）、広場、駐車場</li> <li>[駐車舞台数]</li> <li>■建物用：普通車（97台）、車いす使用者駐車場（2台）</li> <li>■道の駅用（24H）：普通車（13台）、大型車（1台）、車いす使用者駐車場（1台）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物（コミュニティセンター他）を敷地南側へ配置する。</li> <li>[配置施設]：建物（コミュニティセンター）[避難施設]、直売所、レストラン、屋外トイレ（24H）、広場、駐車場</li> <li>[駐車舞台数]</li> <li>■建物用：普通車（97台）、車いす使用者駐車場（2台）</li> <li>■道の駅用（24H）：普通車（13台）、大型車（1台）、車いす使用者駐車場（1台）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建物（コミュニティセンター他）を敷地北側へ配置する。</li> <li>[配置施設]：建物（コミュニティセンター）[避難施設]、直売所、レストラン、屋外トイレ（24H）、広場、駐車場</li> <li>[駐車舞台数]</li> <li>■建物用：普通車（97台）、車いす使用者駐車場（2台）</li> <li>■道の駅用（24H）：普通車（13台）、大型車（1台）、車いす使用者駐車場（1台）</li> </ul>
周辺資源の活用	・ 建物を拠点として、親水公園や桜並木などの地域の周辺資源を活用した連携が可能である。	○ ・ 公園を賑わいの中心とすることにより、親水公園や桜並木などの地域の周辺資源を活用した連携が可能である。	◎ ・ 建物を拠点として、親水公園や桜並木などに最も近接しており、地域の周辺資源を活用した連携がしやすい。
建物からの景観面	・ 建物を河川側に配置することで、自然景観（河川、桜並木等）に対する眺望を一部確保することが出来る。	○ ・ 建物が南側の敷地奥に配置されるため、河川や桜並木等の景観への眺望確保が難しい。	△ ・ 建物を河川側に配置することで、自然景観（河川、桜並木等）に対する眺望を確保することが出来る。
区画割	・ 駐車場の一部が別区画となってしまうため、一体的な配置とならない。	△ ・ 駐車場や広場を一体的に配置することが可能であるが、一部活用できない部分があり、駐車台数が減る可能性がある。	○ ・ 駐車場や広場を一体的に配置することが可能である。
道路からの視認性	・ 八丁峠トンネル側からの道路利用者に対して施設の存在をアピールすることが可能であり、休憩や飲食等を目的とした立寄りがし易くなる。	○ ・ 八丁峠トンネル側からの道路利用者に対して施設が見えにくい場所にあるため、効果的に存在をアピールすることが難しい。	△ ・ 八丁峠トンネル側からの道路利用者に対して施設の存在を最も視認できる配置であり、休憩や飲食等を目的とした立寄りがし易くなる。